

オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト

活動地域  愛媛県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

調査日数	49日
ステークホルダー増加数	4組織
今年度計画の達成度	75%
全体計画の達成度	75%



地元小学校3年生の授業で産卵観察を実施

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

「風早トンボサミット」は会場及びオンライン開催としたが、当初申込みが低迷。SNSを活用し、日本トンボ学会に告知を依頼する等募集を強化し、計75人の参加を得た。

■ 工夫した点

オオキトンボの生活史と、必要とする環境がため池水管理によって創出されていることが、活動地域の里地の魅力とともに伝わるよう、ドローン撮影を行って動画を制作した。

課題

オオキトンボの生息するため池の水管理が改修工事等により改変され、産卵や孵化に適した環境が失われ、生息が減少傾向にあるが、農業従事者に関心を高めてもらいたい。

目標

本種が生息する五つのため池の管理者により、生息に寄与するため池管理が導入され、生息数の増加傾向が継続する。ステークホルダーが多様なセクターにおいて拡充する。

活動内容と成果

- 調査区における本種発生数は、2020年に454、2021年に308、2022年に337と安定したが、増加の継続にはならなかった
- 地元新聞やNHK松山放送局から取材を受けて活動が発信されたり、県立図書館から郷土資料としてオオキチくん通信収蔵の申し出があったりと、活動への認知が社会的に広まった
- 北条地域在住者を対象とした本種認知度は、2020年の34.2%から2022年の53.2%に向上した
- トンボの写真展、「風早トンボサミット」運営、動画制作は、地元企業や事業者、NPOの協力を得て実施できた



オオキトンボの産卵

全助成期間の活動を振り返って

- 発生のコアであるため池の改修時でも、近隣の池が生息に適した環境であることにより発生数が維持されると想定し、複数のため池の調査や管理者への説明を行った
- 小学校との観察会、通信発行、イベント出展等を継続して保全の機運醸成を図った。その状況をマスコミに取材・発信してもらい、認知度向上につながった
- 調査の成果を、ポスター、クイズ、通信、動画等、多様なツールに展開し、場所や対象に応じて活用した



トンボサミットで参加者を交えた意見交換

〒790-0827
 愛媛県松山市鉄砲町1-7
 電話：089-992-9152
 E-mail：nfo@morimichi.org
 HP：http://morimichi.org



今後の展望

- コア池における調査を継続し、本種の生息状況を把握する。ため池管理者は2年で交代するため、毎年2月に調査結果を報告し、発生数維持のカギとなる3月中の貯水開始を依頼する
- 活動で得た情報や地域とのつながりを活用し、本種産卵観察をコンテンツとしたエコツアーを行い、北条地域の里地の魅力を発信する計画である
- 令和5年度から松山市の環境学習事業を運営するため、本種保全活動を事例として周知していく

